

埋設管の現物展示

今日の作業場所からどんな管が出てくるか確認！
現物を見たことが無い人も多い！



『視角』・『触覚』をフルに活かして感じ取ってもらう

『現認』を第一として安全管理を行なっている。

都市土木の宿命として埋設管をさけて通ることはできません。

ある日、試掘や掘削作業の際の事前検討会で、その日に出現する埋設管を言葉で説明していた時に、作業員さんから「実物を見たことが無いので、怖い」という話があがりました。そこで、各埋設企業者をお願いして管の切れ端をいただき、掘削時に先に出現する「埋設シート」と共に朝礼広場に展示する事を思い立ちました。

また埋設管による過去の重大事故を掲示して重要度の理解を深めてもらう様にしています。この展示により、例えば「SVP管はこれ」と説明したり、「PE管はこんなに柔らかいから慎重に手掘りして下さい」等の指示の理解度が上がり、危険予知もより具体的になりました。